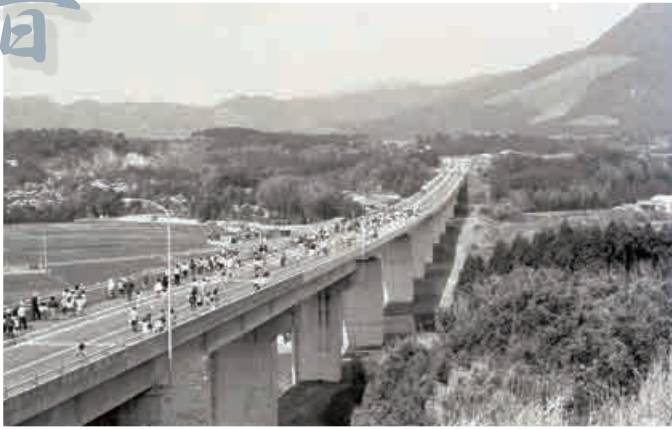




鹿屋大橋の渡り初め（下祓川町、西祓川町）

昔

昭和61年4月



今



国道220号鹿屋バイパスにあり、多くの車が行き交う「鹿屋大橋」は、昭和61年に開通しました。その全長は543.21m。当時は九州で2番目に長い陸橋でした。同年4月5日の開通式で行われた渡り初めには、市民約1,500人が参加。平成4年に鹿屋バイパスは全線開通し、平成22年には片側2車線へと拡幅され、周辺の渋滞が緩和しました。

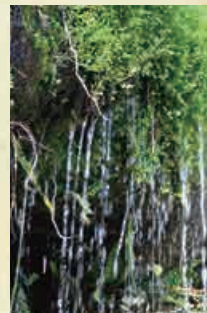


藩から賜された看板。明治16・17年頃の大火の影響で製造は衰退した。

「桜川」は、江戸時代から明治時代にかけて市内で作られていたお酒（あられ酒）で、藩主の島津家や琉球王にも献上されるほどの名品でした。島津家が開く宴や高貴な人へのもてなしに使うお酒は「桜川」と指定されていたといえます。その名は、お酒の中に含まれる成分が、桜の花びらが散るように見えることから、琉球王によって名付けられたとされています。

手ぬぐい鉢巻で勇ましく池に飛び込み、桶やたるに水を組み入れ運んだそうです。この「醸造祭り」は見物者が多く、当時からお酒が人々に愛されていたことをうかがい知ることができます。

また三国名勝図会の中では、「其味清爽にして、甘美なり。本藩のうち、酒の絶品とす。」（中略）此の酒の絶品なるもまた水の力にもよるべし」とも記されています。醸造用の水は、酒屋の宅地内の井戸水、又は鹿屋城（現在の城山公園）内の湧き水との説がありますが、いずれにしても市内の良質な水が使われていました。



城山周辺では今も水がこんこんと湧き出る

琉球王が名づけた銘酒「桜川」

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！